

会 議 録 (要 旨)

会 議 名	平成30年度第2回武蔵村山市子ども・子育て会議
開 催 日 時	平成31年2月20日(水) 午前10時から午後12時まで
開 催 場 所	301会議室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：佐々委員(会長)、布田委員(副会長)、乙幡委員、大友委員、前川委員、比留間委員、大熊委員、齋藤委員、谷治委員 欠席者：志茂委員、菅田委員、田島委員 事務局：子ども育成課長、児童担当課長、子ども育成課保育係係長
議 題	(1) ニーズ調査の集計結果(速報)について (2) その他
結 論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	議題1について 内容を各委員確認の上、意見がある場合は事務局に伝える。 議題2について 特になし。
審 議 経 過 (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。)	1 開会 ○会長挨拶 (会長) 昨今、虐待などの問題が多く現れ、国でも対策強化が言われ、関係部署も大変なことと思われる。本日、子ども・子育て支援事業計画を策定するためのアンケート調査の速報報告があるが、市ではほぼ同時期に、貧困関係、ひとり親など関連調査も行われている。それらとの関連、どこがどうつながっているかなどの確認や施策の検討がこの先大事になってくると考える。では、平成30年度第2回武蔵村山市子ども・子育て会議を始める。まず議題1について、事務局より説明をお願いします。 <事務局より報告と確認> (事務局) 本日9名の委員出席、会議成立。会議内容の公開、会議録作成のための録音の承認。配布資料の確認。 2 議題 (1) ニーズ調査の集計結果(速報)について 事務局) 前回の会議で検討いただいた内容に沿って修正した調査票で調査を実施/調査の概要(資料7のp2より)、調査対象者、調査方法、回収率については前回調査よりも上がっている。前回、就学前は42.6%、小学生44.9%だったところ、今回は就学前が45.1%で2.5ポイント、小学生47.1%で2.2ポイントそれぞれ上がった。 (事務局) P21、教育・保育事業の利用を開始しようと考えている子どもの年齢。3歳が48.8%最も多い。次いで1歳、2歳であった。 P23、問17、もし、教育・保育サービスにかかっている現在の経済的負担が減るとしたら、現在の利用から変

更・追加したいと思うものはあるか。幼稚園、幼稚園の預かり保育、認可保育所が上位3位であった。10月からの無償化を考えた設問であった。

P57、問 32 子育てをしていて感じる事。子育てが楽しい、子どもの成長が楽しみ、それぞれ「よく感じる」人が多い。子育てにかかる経済的な負担については「よく感じる」が31.7%「ときどき感じる」が44.8%で、約75%が感じるとしていた。

P59、「問 33 武蔵村山市は安心して子どもを産み育てることができるまちだと思うか」と「問 14 現在の事業利用の有無」のクロス集計を行っている。事業利用をしている人で「そう思う」が11.8%、「まあそう思う」で61.8%、利用していない方でも「そう思う」が19.0%、「まあそう思う」が51.8%。事業利用していない方でも市が子どもを産み育てやすいと思ってくれていると思われる。

P61、問 35 子どもに関する市の施策や行事などの情報の受け取り方。今後については紙によるものよりも市のホームページやSNSなどを望む声が大きく、今の時世が反映されているよう。P98の小学生保護者も同様の結果となっている。

(事務局) 資料8に沿い、クロス集計について説明。今回の速報は単純集計が中心の報告である。クロス集計は2つの設問を掛け合わせて集計するもの。例えば子どもの年齢別に傾向を見るなど。速報時に既に行っているクロス集計があり、一つは「問 14 現在の事業利用の有無」を軸とするもの。問 14 で、武蔵村山市で教育・保育を何も利用していない方が約3割いるとわかった。この方々を「家庭での保育層」と捉えた場合、無償化による動向、子育て感、市への評価などが事業を利用している方々と変わるかどうかという観点から集計したもの。例えば、速報 P58の子育て感で、「地域の中で孤立している感じがする」では、孤立いると「感じる」割合が「家庭での保育層」の方で高くなっているといった違いが見える。小学生については学童クラブの利用意向について学年とクロス集計を行っている。子どもの年齢、居住地区などの基本属性や、先ほどの問 14 とのクロス集計を今後予定しているが、報告書にはそこから注目すべき結果が出たものについて掲載していく予定である。またクロス集計ではないが、問 11、保護者の就労状況については前回調査との比較を報告書には掲載した方がよいだろうと考えている。前回の調査と比べて、働いているお母さんが増えたということがすでにわかっている。

(会 長) 速報時点でグラフ化などわかりやすく示されている。内容は多岐にわたり、今すぐに意見というのは難しいかもしれないが、お気づきの点はあるか。回収率が上がったのはよいこと。それだけ、多く意見が届いているということである。自由意見はそれぞれ個人の率直な思いが寄せられているように思う。ここばかりにとらわれると全

体像がみえなくなることもあり、全体像はグラフや数値で見えていく、というのが統計調査。数字上のことなどでも質問は？

【質疑】

(事務局) 補足で、参考として自由意見を参考資料として本日ご覧いただいたが、これは報告書の中では一部の掲載となる予定。ページなどの都合もあり全ての掲載はできない。

(会 長) 報告書は全住民が見るものなので、どのように掲載・公開するかはしっかりと検討する必要がある。自由意見でもすべて公開する市もないわけではない。自由意見でもこの部分は重要と思われることなどあれば委員からご指摘を。前回の自由意見などもう一度見て、今回のものを見るとまた見えてくるものもあるのではないかと。先ほどのクロス集計についてなども含め、追加要望などあれば2月中に事務局へ。

(会 長) 保護者の就労状況など、5年前の調査と変わってきているところが先ほど報告あった。この短い期間でも変わってきている。これらの変化も計画に組み入れていることが大事だろう。すべての声を施策に反映するのは難しいだろうが、より多く取り込む努力が必要と思う。

(副会長) 無償化の影響というものが全体に出てくるのではないかと思う。

(会 長) 幼稚園の利用、保育園の利用、就労の必要性、子どもを預けるとしても3歳からを希望する人が多かったことなどとも関わるだろう。働かなくてもよいという人で、3歳までは家で育てたいという意向が残っている地域とも思われる。3歳以上の保育がすべて無償化。幼稚園については全てというわけではなく、無償化の具体的な対象がまだわかりにくいところがある。食費や実費のところなど。

(事務局) 無償化についてまだ詳細、具体的な情報が入ってきていない状況ではある。10月から無償化開始となっているが、わからないところも多い。

(会 長) 国の方でも具体的なことが後手に回っているところはある。国の制度が具体的に区市町村に降りてこないところが多い。

(事務局) 幼稚園の希望は前年より増えたりしていますか？

(委 員) クラスは増やしたが、先生がいなくて困っているところでは。

(会 長) 幼児については幼保一本で検討というのが国の方向。世の中全体が早めに教育をと考える風潮もある。そういったことから幼稚園の利用希望は高まっているようにも思われる。預かりの充実もあつてか、幼児について期待するのは幼稚園と言われている気がする。ただ、幼稚園の実績からすると、福祉の面について幼稚園は少し弱い。3歳以上については、幼稚園は教育上の特色を出せるが、保育園はそもそも福祉施設であり、そういう広報はやり

にくいという面もある。そういった違いはある。歴史があつて手堅い、保育理念をしっかり持っているというところはそういった実績から「行きたい園」の上位に入ってくる。今は保育園に通っている子どもを迎えにいて、その後、塾へ行かせてまた園に戻るといった例も。賛否あるだろうが、こういった話など「保育とは何か」という原則から考えなければいけない。今、保育を取り巻く保護者の要求などはさまざま、小学校になれば学童保育についても要望は増えている。

(会 長) 貧困の関係のことはどこの部署で扱っている？ 地域包括支援センターはどの部署が管轄している？

(事務局) 貧困関係は同じ健康福祉部の中の地域福祉課が調査している。新年度に計画策定予定です。

(会 長) その計画づくりの資料はこちらの会議に開示されるか？ そちらの会議とこちらで協働ないし合同の会議ということはあるのか？

(事務局) 今のところ調査までです。地域福祉課の方ではこういった委員会はまだない。新年度は委員会を立ち上げる予定と聞いている。

(会 長) 今度の子ども・子育て支援事業計画には貧困問題などが盛り込まれないといけないと思う。所管課同士でしっかり連携調整を行うべきである。事務局の方で、貧困調査の結果そのものが提供されないとしても、貧困の実態としてどういうことがあったかなど読み解いてこちらの会議にも提示してほしい。また「妊娠期からの切れ目ない支援」についてはどこでやっているか？

(事務局) 妊娠期からの支援という面では健康推進課行っています。また、子育て支援課では子ども家庭支援センターの運営を委託で行っていますが、4月以降市の直営になります。

(会 長) 子ども家庭支援センターといったところでの相談事項や扱い事例、実態なども、こちらの子ども・子育て支援事業計画の策定では検討すべきだろう。母子・父子の相談など、それらも資料としてこちらに提供あるとよい。「貧困問題」「虐待」「ひとり親」も対策が大事なこと。実務をしておられる市内の部署同士でしっかりと連携をしてほしい。

(事務局) 貧困は地域福祉課、ひとり親は子育て支援課、そしてこちら。確認し合って計画の策定を進めていきたい。

(会 長) 3月25日の会議で関連する調査の資料は出るか？ 2月いっぱいはこちらの調査についての意見を委員がだしても、他の計画には間に合うのか？

(事務局) 3月はあくまで調査についてのみで、計画は平成31年度に行います。

(会 長) 資料4について説明を。

(事務局) 今回のサンプル抽出（発送）についての表である。地区まんべんなくサンプリングをして発送したが、その試

	<p>算・内訳表である。発送にあたり意識的な調整はしていないが、幼児と小学生がダブるとか、そういった微調整の配慮は行った。</p> <p>(委員) 回収率が前回より上がったといっても、半数以下なのかと感じた。戻ってこなかった人に催促などはしたのか。</p> <p>(事務局) お礼状を兼ねた督促状をお送りした。これを境に10ポイントくらいは回収率が上がった。効果があったと思う。</p> <p>(委員) このアンケートが届いた方、届いたときはどう思いました？</p> <p>(委員) 私(アンケートが来た委員)はいろいろと伝えたいほうなので、しっかり取り組んだ。ただ人によるだろうと思う。</p> <p>(会長) 忙しい中、ある程度時間のかかるこのアンケートにこれだけ答えてくれたということはあるがありがたいと思う。</p> <p>(委員) 虐待のニュースなど多いが、今回の調査でそれに類する設問はあったか？</p> <p>(会長) 虐待に関する設問を設けるところもあるが、なかなか聞きにくいことでもあり、子育てが辛いのか、楽しくないのか、といった設問から読み取る、そこでの数値を重く受け止めたりしていくという捉え方になるだろう。少数の人や、無回答にひそむ意味なども考慮が必要。国から示された「量の見込み」のための設問だけで前回やった自治体もあるようだが、武蔵村山市は次世代育成の流れや市の独自の設問なども設けている。それらを読み取っていくことが大事と考える。</p> <p>(委員) 報告書P4について。お住まいの地域は各地域の回収率を示すものか？</p> <p>(事務局) 今回の回答数の地区別内訳である。地区ごとの回収率ではない。</p> <p>(委員) 昔は(学校で)保護者懇談会などあったが、今、保護者会として行なっても連絡事項を伝えるだけで意見や話を聞ける場ではなくなってしまっている。地域で大人、子ども含めて相談できる、話ができる場所などが必要なのではないか。いろいろな場で、保護者などの意見や思っていることを聞ける場所や機会の大事さを感じる。保護者の子育ての力が弱くなっているように思う。大人同士のコミュニケーションの場が大事。学校などに求められることは大きいと感じている。</p> <p>(委員) 子育ては難しい。昨今の虐待のニュースには胸が痛くなる。自分の子育て期と今の親御さんの環境の違いも感じる。さまざまな事業者や施設が力を出し合っていないと感じる。</p> <p>(会長) ここ10年ほどで保護者の考え方などが変わってきているという研究もある。</p> <p>(委員) p4について、地区ごとの回収率も出したらどうか？</p>
--	--

	<p>(会 長) 文章で「これは回答数のこと」と補足するとよいかもしれない。</p> <p>(委 員) 武蔵村山市で13年、子どももここで3人生まれた。彼らにとっての故郷である。子どもたちの笑顔が守られる市になるといいと思う。</p> <p>(委 員) 自分は12年前に県外から移り、子どもが生まれた時も周囲に知り合いがなく孤独だった。生後8か月まで「子ども家庭支援センター」の存在を知らなかった。誰も教えてくれなかった。今回の調査で、子ども家庭支援センターを知っている人は70%、知らない人が23%くらい。子ども家庭支援センターの情報があることでずいぶん子育て中の孤独感から救われる人や虐待の防止ができるのではないかと思う。自分の孤立の体験からNPOを立ち上げたが、その中で虐待についての相談などを受けることもあり、それはセンターにつながるようにしている。子育て中の仲間がいるように見えても「心から通じる友人がいない。表面上だけのつきあい」などと打ち明けられることもある。話をしやすい、相談しやすい場の大切さを感じている。小学生の子をもつ親同士の間でも、SNSなど便利なものがある半面、そこでのちょっとした発言で仲間外れになってしまうなど、コミュニケーションの難しさなども最近が多いように思う。とにかく敷居の低い、駆け込める場所があれば、と思う。民間団体も協力したい。相談の敷居の低い市になってほしい。</p> <p>(委 員) 勤務先の商店で子どもを突き飛ばす、怒鳴る親などを目にもすることもあるが、従業員の立場では対応できない。人目を憚らず子どもを怒鳴る、たたくなどの行為を見ると、自宅ではどのような状況かとも思うがどうにもならない。その現場となっている店などでどうするか、何ができるかを考えなければいけない時代になっていると思う。経験では、親同士のおしゃべりの場がレストランだった。店には迷惑だろうがこれがとても救いになっている。これが小学校に上がると親同士のLINEのやりとりに移った。保護者会の後で茶話会(PTA主催)を行うなど。しかし問題のあるご家庭の保護者はこれらに出でこない。声掛けをしても伝わらない、手出しのできないところに、支援の必要な人がいるのではないかと思う。</p> <p>(委 員) アンケートなどにはいつも協力する。また今回のように結果が報告されるが、アンケート結果がどう活かされるのか、施策のどこに反映されたかが見えてくるとやる気も違うはず。自分が書いたアンケートは気になるものだから。</p> <p>(会 長) 保護者をはじめ、様々な立場の方が参加されているのが武蔵村山市の子育て会議。都の自治体の委員構成について調べたことがあるが、どういう方が委員に参加しているかは自治体によりかなり異なる。ホームページでも委員会についてどこに掲載されているのかわからない、あっても探しづらいというところ多々あった。武蔵村山市の会議では、いろいろな方の意見がありがたく、意見を出</p>
--	--

	<p>していただくことで計画もよくなっていくだろうし、そうしていきたいと思う。さまざまな資料が今回提示された。委員の方々もよく見ていただき、意見など出してもらえればと思う。</p> <p>●議題2 その他 <次回の日程等> (事務局) 次回開催は3月25日(月)の午前中を予定</p> <p>(事務局) 次回3月25日に開催予定の会議では最終報告書をお示しする予定。本日の会議の後、速報へのご意見やクロス集計のご要望などある場合は2月中に事務局までご連絡いただきたい。</p> <p>(事務局) 今後5年間の計画のために、こういった項目のクロスをした方がよいなどというご意見もあればいただきたい。</p> <p>4 閉会</p>
--	--

配布資料	<p>○第1回子ども・子育て会議・会議録・・・・・・・・・・・・・資料1 ○就学前調査票・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料2 ○小学生調査票・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料3 ○サンプル数試算(4月入力済決定版)・・・・・・・・・・・・・資料4 ○子ども・子育てアンケート単純集計報告書(就学前)・・・・・・・・・・・・・資料5 ○子ども・子育てアンケート単純集計報告書(小学生)・・・・・・・・・・・・・資料6 ○子ども・子育てアンケート報告書(速報)・・・・・・・・・・・・・資料7 ○ニーズ調査報告書(クロス項目)について・・・・・・・・・・・・・資料8 (当日配布)</p> <p>「0でも100でもない 働き方ハンドブック」、関連新聞記事</p>
------	---

会議の公開・非公開の別	<p><input checked="" type="checkbox"/>公開 <input type="checkbox"/>一部公開 <input type="checkbox"/>非公開</p> <p>傍聴者： 0 人</p> <p>※一部公開又は非公開とした理由</p> <p>()</p>
-------------	---

会議録の開示・非開示の別	<p><input checked="" type="checkbox"/>開示 <input type="checkbox"/>一部開示(根拠法令等：) <input type="checkbox"/>非開示(根拠法令等：)</p>
--------------	---

庶務担当課	健康福祉部 子ども育成課 (内線：182)
-------	------------------------

(日本工業規格A列4番)